



今年度第1号『進路 NEWS』

この『進路 NEWS』では、北園高校に通う一人ひとりが、自己実現を達成するための進路関連情報を発信していきます。

今回は、北園高校の先輩による〔受験体験記〕を掲載します。志望理由や1、2年時の勉強法、受験期特有の悩みとどう向き合ったか等々。体験談には、みなさん自身の高校生活を豊かにするためのヒントが盛りだくさんです。1年の間に何度か掲載するシリーズにしますので、参考にしてください。

～各学年へのメッセージ～

1年生のみなさん

入学して一か月。高校生活のリズムに慣れてきましたか。勉強面では学習習慣の定着が大切です。曜日ごとの在宅時間を認識して、一日2時間以上を目標としましょう。予習復習で日々の授業理解度を高めることが、将来の選択肢を広げます。

2年生のみなさん

生徒会や部活、行事の中心を担う機会が増えましたね。今は受験を意識しつつも、基礎を培い、素地をつくる時期でもあります。昨年までより少し長い家庭学習時間を意識しつつ、大学見学やボランティアにも主体的に参加し、探究したい対象を見つけましょう。

3年生のみなさん

受験校や受験方式の具体化を迫られ、焦りもあるでしょう。でも、大きな決断を目前に、悩むのは当たり前です。自分を追い込みすぎず、周りの人を頼ってください。

高校生活も残り1年間。先生も仲間も、あなたの自己実現を応援しています。最後に「やりつくした!」と笑えるように、全力でがんばっていきましょう!

✿5～6月の進路行事✿

- | | |
|----------|---------------------------------------|
| 5月10日(水) | 3年 推薦ガイダンス 15:30～ @大会議室 |
| 5月26日(金) | 2年 学年集会(4月スタディサポート返却と振り返り) |
| | 3年 夏期講習一覧配布。看護・医療系ガイダンス 13:30～ @3-1教室 |
| 6月12日(月) | 3年 共通テスト模試(午後) |
| 13日(火) | 3年 共通テスト模試(全日) |
| 6月21日(水) | 3年 進路ガイダンス(6限) |

受験体験記

ケース1 国立大学公募推薦 → 一般入試(前期・後期)

75期生 M.R.さん

進路:東京学芸大学教育学部 学校教育教員養成課程初等教育専攻 国語コース(一般前期日程)

志望のきっかけ

私が志望校を決定したのは3年の4月頃でした。元々本や文学に関わる仕事に就きたいと考えており、高校教師であるいとこの話を聞いて実感がわき、教員になろうと決めました。

推薦入試準備

学芸大を志望したのも、教員養成課程の充実した学校に進学したかったからです。また私は2年修了時点での評定平均が良かったので、推薦型選抜の受験も考えていました。難易度の高い共通テストの受験に不安があり、指定校推薦で私立大学への進学を

早期に決めることも考えました。しかし、夏休みの終わるぎりぎりまで悩んで、学芸大の公募推薦型選抜の受験を決定しました。

推薦試験の内容は小論文と面接で、そのための準備にかなり時間を費やしました。また出願にあたって志望理由書の提出を求められるのですが、これを書くのもかなり大変でした。出願が11月の初め頃なのですが、私は取り組みが遅く、二学期の中間試験が終わってから本格的に書き始め、何度も書き直し、進路部の先生にも繰り返し見て頂いてなんとか書き終えました。

それと並行して小論文の過去問を解き始め、11月中はほぼ毎日国語の先生のもとへ通い、家に帰っては書き直しをしていました。過去問3年分を1年あたり平均6回、多いもので9回書き直しました。また面接の準備では過去問に対する自分の答えを作り、ノートにまとめ、対面での練習を先生にお願いしました。面接の過去問は進路室の資料や、以前に同コースの推薦に合格した先輩や同コースを卒業した先生から頂いたものを使用しました。対面での面接練習は合わせて4回行いました。現在の教育について知り、自分なりの考えを本番で話せるよう、机に向かっていない時間も考えるようにしていました。

試験直前の1か月はほぼすべて推薦の準備に費やしました。しかし結果は不合格でした。自信がないわけではなかったのですが、今思うと面接で説得力のある受け答えができていなかったのだと思います。

一般入試対策

気持ちを切り替えるため、発表の当日は、友人に話を聞いてもらい、その後のテンションが下がらないようリラックスして楽しく過ごしました。

その翌日には私立を含む一般入試の受験校を決める面談を控えていたので、家族に相談しながら入試のスケジュールを組むうちに前向きな気持ちになりました。推薦の対策がきつと役立つであろうと常に思いながら、その後はひたすら共通テストの準備をし、共通テストが終わってから二次試験対策を始めました。

私立の併願校については、共通テストが終わってすぐの日程で一校出願しておく、良い練習台になるのでおすすめです。私は共通テストの一週間後に女子大を受験しました。私立、国立に限らず、程よ

く緊張感を保てます。

学芸大の前期日程の国語科は国語の学科試験と小論文が出題されるのですが、主に学科試験の準備をメインに行い、予想問題や過去問での演習に加え、漢文の句法や古文の文法も直前まで確認していました。小論文は過去問の添削を先生にお願いしたり、推薦の時に書いたものを見直したりしました。当日の試験は、推薦入試の過去問に取り組んだことが活かせる内容で、かなりの手ごたえを得られました。

受験を振り返って

推薦の受験については、やはりハードルが高く、かなりの時間を費やすことにもなります。しかし、十分な情報と時間があれば対策できると思います。推薦受験を考えている人はとにかく積極的に行動した方がいいです。身近に推薦で合格した人がいれば連絡を取ってみてください。またオープンキャンパスの個別相談会で推薦受験をした人を探すとよいです。私は先輩達がどうやって合格を掴んだか、自分から色々質問しました。推薦は受験者が少ない分情報も少ないので、機会があればできるだけ粘ってみてください。まだ推薦受験を迷っている人は、1学期中に決断するのが理想ですが、難しければしっかり時間を使って考えた方がいいです。進路部の先生に相談してみるのもよいと思います。推薦受験はとても大変でしたが、これでしか得られない学びも多くあり、決して無駄ではなかったと思います。推薦、一般に限らず大学受験の経験は自分の人生の糧になるので、後悔のない選択ができるよう応援しています。

後輩のみなさんへ

予備校には通っていませんでしたが、夏休みや冬休みの期間にだけ共通テストの対策講座をオンラインで受講したり、二次試験の直前に国語だけの講座をとって受けに行ったりしていました。高校入学当初は指定校推薦をとることを考えていたために、1,2年時から一回一回の定期テストはかなり真剣に受けてきました。それが基礎を固めることになって、結果的に前期試験での合格につながったと思います。学校の授業をきちんと受けて毎回の定期テストに取り組めばちゃんと実力がつくので、ぜひ頑張ってみてください。